

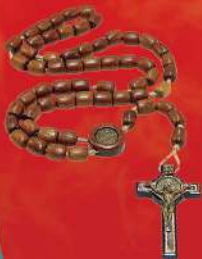


世界の

魔よけ図鑑



大動運
信門光



三国信一・土谷輪 監修

本作り空 Sola 編

岩崎書店



この本を手にとったみなさんへ 4

に ほ ん へ ん
日 本 編

アマビエ 6

獅子舞 8

狛犬 10

四神 12

八咫鳥 14

五芒星 16

蘇民将来符 18

人形 20

さるぼぼ 22

災いから家や人びとを守るいろいろな風習 24

方相氏 26

大豆 28

鬼って何者？ 地獄の赤鬼さんインタビュー 30

青鬼さんが聞いた「おまじない」のうわさ 31

注連縄 32

神棚とお札 34

縁起物・お守り 36



せ か い へ ん
世 界 編

ヒスイ 38

蹄鉄 40

数珠 42

ハムサ 44

ハロウィンのカボチャ 46

クリスマスのリース 48

ホルスの目 50

ライオン 52

四つ葉のクローバー 54

ブラウニー 56

魔女おどし 58

魔女の「おまじない」 60

さくいん 62



アマビエ

種類 妖怪 やくわり 役割 予言して疫病からのがれる方法を教える
年代 1846年～ 発祥 不明

1846年に肥後国（現在の熊本県）の海岸にあらわれたという妖怪。豊作や疫病などを予言する予言獣のひとつ。



アマビエのすがたをかけた江戸時代の文書『肥後国海中の怪（アマビエの図）』 京都大学附属図書館所蔵

アマビエは未来を予言する妖怪「予言獣」のひとつだ。1846年に肥後国（現在の熊本県）の海岸にあらわれたとされる。疫病の流行を予言して「自分の絵をかくて人びとに見せなさい」と告げてすがたを消したといわれ、そのすがたをかけた江戸時代の文書がつたわっている。ちなみに、「アマビエ」という名前は、「アマビコ」を書きまちがえたという説が有力。

むかしの文書を調べると、アマビエのほかにも疫病が流行するたびに、いろいろな予言獣が出没したとされたことがわかる。



アマビエがかかれた御朱印
2020年に新型コロナウイルス感染症が流行したときには、感染しないようにと各地でアマビエのかかれた御朱印やお札が頒布された ©福島八幡宮

そのほかの予言獣・怪獣

姫魚



1819年に肥前国（現在の長崎県）平戸に出現したという姫魚の絵。絵の上には「姫魚は竜宮の使いで、これから7年は豊作がつづくが、その後は疫病で多くの人が亡くなる。この姫魚の絵を見れば病気になる」と書いてある
国立歴史民俗博物館所蔵

ヨゲンノトリ

1858年にコレラが流行したとき、その前年に加賀国（現在の石川県）にあらわれて、世の中の9割の人が死ぬと予言したというカラス。これを記録した文書にはそのすがたを朝夕に拝めば病気になることと書かれている。このカラスは熊野七社大権現のすぐれた力を表すものだという。なお、「ヨゲンノトリ」という名前は山梨県立博物館がつけた 山梨県立博物館所蔵



アマビコ

コレラの流行を予言したとされる猿に似た3本足の妖怪アマビコの絵。コレラよけのお守りとして世の中に出回り、人びとをまどわすとして、発売禁止にされたという記事が明治時代の新聞にもった 国立歴史民俗博物館所蔵



雷奇獣



はげしい落雷とともに空から落ちてきたとされる雷奇獣
国立歴史民俗博物館所蔵

件

件は人間の顔をした牛の妖怪で、未来を予言したとされる。そのすがたをかけた絵を家のなかにはつておけば、病気になるなどとした湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）蔵



大坂城のお堀から出た怪獣

1865年に大坂城のお堀からあらわれたとされる怪獣の絵
国立歴史民俗博物館所蔵



おそれられた伝染病 天然痘とコレラ

天然痘は、世界じゅうで古くから流行した伝染病で、多くの人がこれに感染して亡くなった。日本でも奈良時代から流行の記録がある。天然痘にかかるのは「疱瘡神」のせいだとされ、この神様は赤い色を好む、またはきらうと信じられたので、疱瘡絵とよばれる赤い色ですられた絵や赤い色のお守りが日本各地でつくられるようになった（22ページ参照）。コレラは、ひどい下痢をおこす伝染病で、江戸時代になって初めて日本に入ってきて大流行し、多くの人が亡くなった。とても死亡率が高くコロリと死ぬので、「コロリ」とよばれておそれられた。

疱瘡神が近らないように、中国で病魔をしりぞけたとされる鍾馗が赤色でかかれている ©メトロポリタン美術館



ハムサ

種類 しるし、マーク 役割 魔よけ

年代 不明 発祥 地中海沿岸地域（イスラム教・ユダヤ教文化の地域）

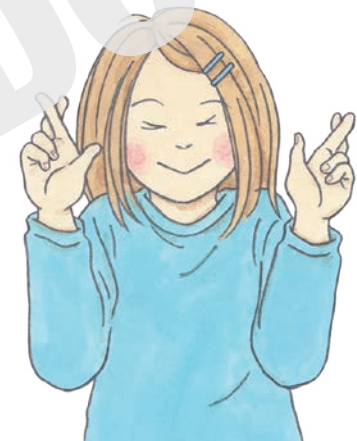


イスラエル北部の窓辺にかざられた手の形の魔よけ ©pixta

手の形をした魔よけは、イスラムの社会では「ハムサ」や「ファーティマの手」、ユダヤの社会では「ミリアムの手」とよばれる。その起源は古代のギリシャやフェニキアともいわれるがくわしくはわからない。

ハムサとはアラビア語で数字の「5」のことで、5は5本の指であり、神の手（神の守護）を表し、イスラム教徒がおこなわなければならない5つのこと*を表す数字なので特別な数字とされている。手についている目は、邪視（だれかをうらやましいと思ったり、ねたんだりする悪いまなざし）から身を守るためにある。ハムサは家の壁にかけたり、ステッカーとして車にはったりもする。青い目玉の形をしたナザール・ボンジュウ（51ページ参照）といっしょになっている場合もある。

ハムサ以外にも、いろいろな国や地域で、邪悪なものを防ぐ手の形をしたお守りが、魔よけの力があると信じられている水晶やサンゴ、銀などを使っ



ひとさし指に中指を重ねた手の形は、「フィンガーズクロス」といい、幸運を祈るハンドサインとして英語やスペイン語が話される国々にはよく使われる

* 5つのこと：イスラム教を信じること。1日5回礼拝すること。収入の一部をまずしい人びとに分けあたえること。ラマダーンの月の日中に食事をしないこと。可能であれば、メッカのカアバ神殿に巡礼すること。

いろいろな手の形のお守り

銀の魔よけ（オマーン）

銀製の装飾品。ファーティマの手のようにも見える。魔よけのために身につけたと思われる

©The Trustees of the British Museum. All rights reserved.



ハムサとナザール・ボンジュウ（トルコ）

ハムサにナザール・ボンジュウがついたストラップ。トルコではハムサとともに青い目の魔よけ「ナザール・ボンジュウ」が、人の邪視をはねかえすお守りとして信じられてきた

©アジア雑貨ショップ・ティラキタ



キリムの手形模様（トルコ）



キリム（敷物）の模様にはいろいろな意味がこめられている。5本の線が伸びた形は5本の指、手の形に由来し、魔よけの力があるとされる ©株式会社いぐれつく

サンゴ製の手のお守り

小指と人さし指を立てた手の形は、「コルナ」といわれ、イタリアなどでは悪運をはらう魔よけなどのサインだ。親指をにぎった形のにぎりこぶしもドイツでは魔よけのサインになっている。両方ともサンゴでできた17～18世紀の古いもの

©The Trustees of the British Museum. All rights reserved.



水晶製の手のお守り



にぎりこぶしの中指と人さし指のあいだから親指を出す「フィグ・サイン」の手の形は、国によっては相手のたいへんバカにしたり、性的な意味をもったりするハンドサインだが、ブラジルなど一部の国では、魔よけや幸運のアイテムになっていてお守りとして古くからつくられている

©The Trustees of the British Museum. All rights reserved.

ファーティマの手

ファーティマの手のドアノッカー。ファーティマはイスラム教の開祖ムハンマドの娘で、慈悲深く一生を社会奉仕のためにささげたことから、魔よけや幸運をよぶお守りとして、中東地域をはじめヨーロッパなどでもドアにつけられる。写真のものをめぐり、聖書にあるアダムとエバのリングをもつ手だとする解釈もある

©土谷輪

